

# 学校だより



令和4年1月31日  
横浜市立二谷小学校  
校長 矢島 孝幸

## 学び続ける

学校長 矢島 孝幸

冬休みが明けると同時に、またまた新型コロナウイルスの急速な感染拡大が始まりました。本校は、学級閉鎖等には至っておりませんが、市内や近隣の情報を聞くといつ学級閉鎖等が生じてもおかしくない状況です。校内では、これまで続けてきた「マスク着用」「手洗いの励行」「ソーシャルディスタンス」「教室等の換気」を再徹底し、感染拡大防止に努めてまいります。この影響で学習発表会はオンライン配信での参観（学校での参観は中止）とさせていただきます。また、その他の活動も延期や中止、形態を変更するなど、急な変更によりご迷惑をおかけしてしまい誠に申し訳ございません。児童の安全を最優先して考えております。ご理解くださいますようお願いいたします。このような状況下ですが、感染拡大予防に努めた中でできる教育活動に最善を尽くし、子どもたちの学びを止めないことに尽力していきたいと思っております。地域・保護者の皆様のご支援とご協力をよろしくお願いいたします。

さて、子どもたちにとってより良い教育活動を実践できるよう、職員も校内研究・研修に取り組んでいます。「かわりの中で 主体的に学ぶ 子どもの姿を求めて」というテーマを設定し、職員同士で授業を見合って研究しています。授業の中で、子ども同士が互いの考えを認め合いながら学びを深めて課題を解決し、指導内容を身に付けるような授業となっているかを視点とし、授業を参観します。また、子ども自身が自分への肯定感（自信）を



高めるような、学び合いや認め合い等、豊かなかわりが授業で展開されているかを見ています。放課後の研究会では、授業者の自己評価や参観者の意見を交わして、テーマに迫るための授業づくりについて話し合います。私たちの研究・研修は、本校が目指す子どもの姿の実現を図るために、毎日の授業のあり方を探究すること、子どもにとって「分かりやすい・楽しい授業」を実践するための力を身に付けることを目指しています。コロナ禍の中でも子どもの学びを止めないのと同様に、自分たちも学びを止めずに教師としての力を高められるように取り組んでいます。自分たちが学び続けることで、子どもたちにとって楽しい授業、そして、学校が安心できる場所となるよう、今後も取り組んでいきます。

また、定期的に全職員で子どもたちの様子を共通理解するための情報交換を行っています。各学年やそれぞれの立場の職員が、実際に見た姿だったり、自分が感じた子どもの良さや課題を共有したりしています。情報交換の中で、より良い成長に向けたかわり方やより適切な対応の仕方を話し合い、児童理解や児童支援の研修としています。学校は様々な立場の職員（学級担任・専科・養護・栄養等）がいます。それぞれの立場で感じた子どもの情報交換は、子どもを多面的に捉えるためにとても大切です。一人ひとりのより良い成長のために、良さを認めた指導・支援につながる研修にしていきたいです。

先日の朝、職員玄関前の門を出ると、手を振ってくれている1年生がいました。一緒に歩きながら、前日の研究会で見た体育授業の話をする、嬉しそうな笑顔で楽しかったことを延々と聞かせてくれ、心が温まりました。朝の寒さを忘れさせてくれる素敵な時間でした。